村の文化財新たに二件指定

日枝神社（沢海）の大幟等

このたび、村の文化財として次の二件が指定になりましたのでおしらせします。

○有形文化財

一、沢海日枝神社大幟　一組
二、所有者、北方博物館
三、品質及び形状
巻菱湖の書、木棉布製

巻菱湖（一、七六七〜一、八四三）は江戸時代中期の書家「幕末の三筆」の一人、越後（新潟）の人、名は大任、字は致遠、一九才で江戸に出て亀田鵬斎に学んだ。書を好み欧陽詢、盛唐の季北海の書を学んで一家をなした。この書風は「菱湖流」と呼ばれて迎えられ、明治になって一時流行した。

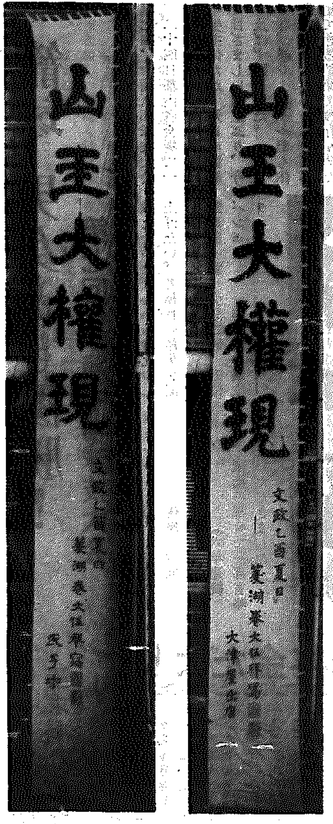
書は、「山王大権現」と両幟に記され、一つは階書、一つは隷書風に記されている。

下部の一つには氏子中、もう一つには、大津屋出店とあるが、寄贈者名と思われる。但し、大津屋出店の所在は現在不明である。尚この大幟は祭礼の度に立てられていた。

四、寸法（二枚共）
長さ、十二㍍三五
巾、一㍍三七
五、徴証及び伝承

菱湖が新潟に来港していることを聞き、沢海在住の陸田中の両人が急遽、布を調製し新潟に赴いた。あたかも菱湖は芝居の見物をしており、酒宴の最中であったが、快く承諾し右の文字を揮毫した。（一、八二五年文政八年のことである。）

その後祭礼の度に神社前鳥居の箇所に立てていたが、後年、新発田屋前に移された。その後電線の邪魔になり立てることを止めた。後伊藤家で保管し、現在北方博物館の所蔵となっている。



巨大な大幟

○有形文化財

一、横越村大庄屋、建部尚行顕彰に関する石碑　一基
二、所有者　建部利彦
三、品質及び形状
高さ、一一八㌢
横五〇㌢、奥行四〇㌢の石面に篆刻されている。

原文の筆者は鈴木重胤である。

鈴木重胤（一、八一三—一八六二）江戸時代末期の国学者、淡路国（兵庫）の生れ、号は厳橿本、はじめ本居宣長に私淑し、大国隆正に学び、また平田篤胤没後の門人をも称した。二〇余歳の頃大阪に出て著術に従事、和漢の学をきわめ国語学にも通じた。幕末の思想運動に暗躍し、暗殺されたが、同志の尊王派から誤解されたためという。

博覧強記で著書が多いが「祝詞講義」「日本書紀伝」「詞之捷径」などが名高い。国学思想普及のため、越後にも来越し特に新津、桂家と親交があり、度々来津した。その際建部家とも交遊された。

四、徴証及び伝承

嘉永四年（一八五　年）鈴木重胤四度新津桂家に立寄る（重胤は、天保十四年に秋田に退隠した平田篤胤を訪ねるため大阪を出発、越後路に入り前日は加茂に一泊し、二十八日初めて桂家に立寄り、十月三日まで滞留して国学を講義した。その後、天保十五年、嘉永元年、同四年、安政三年に新津、桂家を訪れている。

（新津市史略年表による）その際、桂家の依頼で桂誉止の墓碑銘を撰文している。この年に、この碑文も撰文されたものと思われる。この数回の訪問中、建部家も国学の講義を受けられ、親交を得ておられたものと思われ、この尚行顕彰碑を揮毫されたのであろう。現在から百二十五年以前の横越島大庄屋建部家の状況を知る上に貴重な石碑であると思われる。

建部尚行顕彰に関する石碑

県民スポーツ横越大会開かる

小学生から高令者まで

去る六月二十日、第十二回県民スポーツの日横越村大会が開催された。

当日は、梅雨入りにはめずらしく晴天にめぐまれた。

種目は、剣道、柔道、銃剣道、バレーボール、ソフトボール、ポートボール、歩け歩けの七種目で子どもから高令者まで三百名を越える人々がスポーツを楽しんだ。また会場には統合小学校体育館及びグランドも使い、新しい体育施設で熱戦がくりひろげられた。

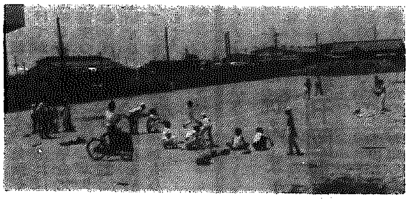
歩け歩けでは、五十名の参加があり、ほとんどが高令者であったが、中には家族連れの参加も見うけられた。

統合小学校施設を見学してからスタート、北方文化博物館を見学し、大栄寺では、寺から出されたみそ汁を飲み昼食をとった。

帰りには記念写真を撮り楽しい一日を過した。

また今回は、農協の寄付金により、体協ネームの入ったゼッケンもでき、高令者一人一人がスポーツ行事に参加しているんだという意識を高めた。

◇剣道
○小学生の部
一位　佐藤　長幸
二位　原　豊
三位　伝　一
○中学一年の部
一位　植木　大輔
二位　仲村　高志
三位　諸橋　豊
○中学二年の部
一位　飯野　浩則
二位　山田　洋一
三位　遠藤　裕彦
○中学三年の部
一位　仲村　浩行
二位　伊藤　藤博
三位　熊倉　勝正
○一般の部
一位　田村　茂栄
二位　残間　信一
三位　佐藤　正明
◇剣道、銃剣道異種試合
一位　阿部嘉寿一
二位　串田　徳行
三位　渋谷　健文
◇柔道
○小学生の部
一位　入山　昭彦
二位　塩井　勝
三位　大森　芳則
三位　佐藤　豪
○中学一、二年の部
一位　中沢　智
二位　渡辺裕一
三位　吉田久雄
○中学三年の部（A組）
一位　本間徳和
二位　青木信次
三位　小林一成
○中学三年の部（B組）
一位　中沢　巧
二位　長谷川正明
三位　大沢　正三
◇ポートボール
一位　横越下チーム
二位　横越中チーム
◇ソフトボール
一位　横越上、下合同チーム
二位　横越中チーム
三位　小杉Aチーム
三位　沢海チーム
◇バレーボール
○婦人の部
一位　マッハチーム
二位　小杉チーム
○青年の部
一位　横中バレー部
二位　横越バレークラブ



〔写真説明〕
①ソフトボール
②歩け歩け運動
③バレーボール

文化団体紹介②

横越村蜀鶏（とうまる）保存会

越後の唐丸は越後の先人の作ったもので土佐の東天紅、秋田の声良などと共長鳴の特技を持った非常に珍らしい鶏であるとされている。その鳴声はじつに素晴しい芸であることは周知のことで、それにあわせ備えるに堂々とした偉軀然も端麗な姿もあるので、斯界の最高傑作であるとの定評がある。

さて、蜀鶏はどのような鶏をもって理想とするものであるか、さらにその鑑賞の仕方を述べたいと思う。まづ、なによりも標準を詳細に解明し目標をきめることであるが、個体の解説をする前に来歴を少し述べる。

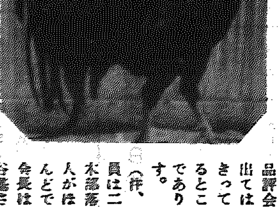
三百年前ぐらいに、我が国に外国船により輸入されたといわれ闘鶏用に優れておらない、その後日本鶏研究家、村松弥幸先生曽では、支那の原産とのこと、その後第二次世界大戦で少なくなったが今では、昭和十四年に天然記念物に指定され各地で生産されている。

終りに我横越村は、県より横越村蜀鶏保存会の下名がありました。

但し組合成立は昭和四十七年度、その年岩室村教育委員会の催す品評会に出品優秀賞をいただき、昭和四十九年には北蒲原笹神村に出品小軍鶏に優秀賞をもらいました。翌年五十年に出品し優秀賞及び優良賞を獲得しました。

今日では組合員十四名、各人とも今年度は西蒲、岩室の品評会、及び北蒲、笹神村の品評会に出てはりきっているところであります。

（評、会員は二本木部落の人がほとんどで、会長は渋谷[illegible]さんです）


美しい姿の蜀鶏

中蒲通普球技大会
本村において開催
ぜひご観戦を!!

七月十一日（日）午前八時より横小体育館、排球、男女、籠球男子、羽球
桃山グランド、野球、ソフトボール、公民館卓球

表紙写真案内

原氏宅で今から約七十年前に造園をされた広大な庭園である。新潟の後藤庭園の作品であり、広場をおいて遠に築山があり、[illegible]山水の[illegible]かである。樹木、石燈籠、[illegible]など苔むしてその古さを感じさせている。後藤庭園は金津の中野様の庭園も作られた方であり、今なお△その家は新潟市にあり、その道にたずさわっていられるとのことである。

「危ない」と子をしかるより手を引こう